患者が知っておきたい

「良い歯医者」「危ない歯医者」の見分け方

4月18日は「良い歯の日」

インプラント治療をめぐる医療訴訟が急増中！

加齢とともに歯周病や虫歯に悩む人も多いはず。近年、従来の入れ歯に代わり注目されているインプラントだが、歯科医院選びには細心の注意が必要なのだ――

■

「歯科治療の場合、成功したか失敗したかって患者にとって、とてもわかりづらいんですよね。結局のところ、歯科医の倫理観に委ねるしかない。でも、患者の立場からわかる良い医師と悪い医師の判断基準っていうのも少なからずあるんです」

と語るのは、歯科医療コンサルタントとして数々の歯科医院の内情を見てきた伊藤日出男氏。

現在、コンビニエンスストアを上回り、全国に6万7千441カ所（'06年12月末、厚生労働省調べ）**もあるという歯科医院。当然のように競争は激化し、残念ながら患者を無視した利益優先の歯科医が出てきているという。**

「インプラント」という歯科治療をご存じだろうか。1950年代に、スウェーデンの医学者・ブローネマルクが"骨とチタンの結合"を発見したことから始まり、治療法として確立したのは'80年代半ばになってから。その構造は、顎の骨にインプラント体と呼ばれるチタンのネジを埋め込み、その人工の根の上に歯を形成するというもの。

現在の医療では、一度欠損した歯を元に戻すことは不可能とされている。そこで、入れ歯かブリッジという選択になるのだが、入れ歯はガタガタして硬いものが食べられなくなったり、歯茎との間に食べ物が入り込んでしまう難点がある。また、ブリッジを作るためには健康な両隣の歯を削らなくてはならない。見た目も天然歯ではないことが一目瞭然だ。いっぽう、インプラントは、自分の歯とほとんど変わらない感覚で食事ができるという。

だが、喜んでばかりはいられない。**今、このインプラントをめぐって、さまざまな問題が起きているのだ。現在、10軒の歯科医院のうち、7軒がインプラントの手術を行っているというが、そんなに簡単なものなのだろうか。**

前出・伊藤氏が、その実態について警鐘を鳴らす。

「医院の数が飽和状態で、保険治療だけだと経営が成り立たないので、どこもインプラントをやっているというのが現状。ですから問題も出てきていて、今、医療訴訟の約3割がインプラント関係といわれています。

インプラントは確立された治療ですが、それを安全かつ確実にできるドクター、歯科医院は限られているのです。口腔外科とか外科の解剖学的なことがわからないと難しいでしょうね」

伊藤氏によると、口腔外科を専門にした歯科医でないと、神経がどこに通っているのかなどわからずに傷つけたり、また手術中に問題があったときに対応が難しいという。また、患者にインプラントができるだけの顎の骨があるかなどの診断能力が必要となってくるが、経験のない歯科医では難しい。さらに、歯科医の技術だけではなく、その手術を行う環境も重要だ。

「手術室、それに伴う設備があるかどうかも大事ですね。以前、インターネットでインプラントのアフィリエイト広告を出している歯科医院の上位50カ所を調べたら、驚くことに、オペ室を持っている医院はほとんどなかったんです。たとえると、皮膚科の医師が脳外科の手術をしているようなものですね」（伊藤氏）

専門医が教える "良い歯医者"8つのチェック項目

- ☑ 症状や治療について事前に説明をしてくれる医師か
- ☑ インプラント治療の場合、口腔外科を専門とした医師か。手術室および、手術に伴う設備があるか確認する
- ☑ 何本インプラントを埋めたことがある医師か確認する（適応症例を選ばずにやみくもに手術する医師もいるので、必ずしも回数だけでは判断できないので注意も必要）
- ☑ インプラントの価格が安すぎないか（40万～50万円が適正価格）
- ☑ 歯科衛生士が常勤しているか確認する
- ☑ 院内が清潔に保たれているか。器具などがきちんと消毒・滅菌できているか
- ☑ 院内に自由診療の価格表を出しているか。患者の経済力に合わせた治療をしてくれる医師か
- ☑ 待合室に治療や医療控除に関するパンフレットを置き、情報開示しているか

資格不要のインプラント手術

実際に、手術室を設置しているのは、ごく稀な例。約8割の歯科医院が設置せずに治療を行っているという。

「これも医院経営の問題が大きいですね。インプラントひとつ入れることと、入れ歯を作ることでは、コストパフォーマンスが全然違うんです。また、**インプラントのライセンスってないのです。メーカーの講習会を2日間とか受ければみんなやれるわけですよ」**（伊藤氏）

さいたま市にある『森田歯科医院』院長の森田武氏は、口腔外科を専門とし、これまでに数多くのインプラント治療に携わってきた。森田院長が講習会の実態について語る。

「講習会といっても、お遊び程度のものですよね。まだ豚の骨にでもやれればいいですよね。実際に、自分が受けたときは、木で作った骨の模型に穴をあけて、インプラント体を埋め込みましたから」

驚くことに、講習会の次は人体への手術本番ということなのだ。そんな医師に当たった患者は運が悪いということになってしまうが、インプラント治療は成功したか失敗したか、それすらも患者が判断することはきわめて難しいという。

「手術して1週間、2週間は、やっぱり食事がとりにくいとか、腫れるという症状は出てしまうと思います。でも、そのあとも唇にしびれが生じたらおかしいでしょう。また、**2～3年でインプラントが抜けてしまうというのは明らかに失敗です」**（森田院長）

手術後、数年経過しないと、成功したのかどうか患者には決してわからないのだ。そこで、**インプラントにかかる料金がひとつの目安になってくる。通常は、1本あたり40万～50万円が適正価格だという。なかには、1本20万円ぐらいで行っている歯科医院もあるようだが、リスクが高い可能性が大きい。**

「コストが高いと思うかもしれませんが、歯は毎日使うものです。20万円でもできなくないのですが、環境が整っていない場所での手術であったり、そのあとのメンテナンスがなにもないということなのではないでしょうか。2～3年は持つかもしれないですが、倍の値段で入れると、20年、30年持つこともありえます」（前出・伊藤氏）

インプラント治療をした後は、口腔内を清潔に保つことが求められる。正しい歯磨き、そして定期的に医師の検診を受けていかなくては、せっかく大枚をはたいても、抜けてしまうこともあるようだ。その際に、**歯科衛生士の資格を持った人でなくては、口腔衛生の施術はできない。ところがなかには、助手やアルバイトの学生に施術をさせている歯科医院もあるという。**

「歯科衛生士を雇うのにはお金がかかるんですよね。だから、医院に行く前に、下調べでホームページを見て、歯科衛生士がいるかどうかチェックしてみるのもひとつの見分け方です。もしいるならば歯科医院の売りになりますからね、絶対に表記しますよ。出していないところは、おそらくいないと思ったほうがいいでしょう」（伊藤氏）

患者がホームページから読み取れる情報はかなりあるという。家の近所だから、料金が安いからという理由だけではなく、正しい知識と判断で歯科医院、歯科医を選んでいく時代になったといっても過言ではない。"医療のことはわからない"と、最初から思い込まずに、事前に十二分に調べてから選択することが大切なのだ。

インプラントの治療を受けるには、整った設備と清潔な環境が必要不可欠

本誌の取材に答える『森田歯科医院』の森田武院長